

平成26年度 鳥取県西部沿岸土砂管理連絡調整会議 議事概要

日 時：平成26年10月29日（水）午後2時から4時

場 所：西部総合事務所新館2階第17会議室

参加者：別添名簿のとおり

1 開会挨拶

（事務局）

- ・より効率的・効果的にサンドリサイクルを実施したいと考えており、今回前浜の目安の検討を行っている。
- ・個別の海岸単位には課題はあると考えるが、新たな展開に向けた動きをしていきたいと思う。

■平成25年度協議会意見に対する対応状況

（事務局）

※資料により説明

2 議事

（松原教授）

- ・H16、H17に鳥取県では全国に先駆けて土砂管理ガイドラインを策定し、関係機関が協力してサンドリサイクルを実施しているところ。
- ・年に1回の連絡会議ということで、関係機関のご意見を伺えればと思う。

（1）目安とする浜幅について

（事務局）

※資料に沿って説明

- ・今回は砂浜を防護施設として捉え、防護、利用、環境の観点から浜幅の目安を検討した。
- ・防護の観点では、県内の海岸横断データを収集し、最も危険側（最小断面）で標準横断を設定し、県の計画堤防高T.P4.5mを基準に、越波しない浜幅を検討した。
- ・検討の結果25mの浜幅が必要となる。
- ・利用については、国のアンケート調査結果を参考にして、40mを目安として設定した。これはあくまで海水浴利用に係るデータであり、実際には地引網やその他利用も考えられることから、各海岸の特性に応じて設定していただきたいと思う。
- ・40mの背景には駐車場、トイレへの移動の容易性があるようだ。
- ・環境面については定量的な評価が困難であることから、海岸の環境特性を把握した上でサンドリサイクル実施時に配慮することを目標として設定している。
- ・資料に注意書きをしているが今回の検討はあくまで鳥取県内の標準的な断面を想定して設定したものであり、25mを割り込んだからといってすぐにハード対策といった判断にならないようにしていただきたい。
- ・現況に比べてどうかということではなく、目標の浜幅に対するサンドリサイクルを実施したいという思いである。

（日野川河川事務所）

- ・皆生海岸では事業着手段階から今回提案のあった浜幅の考え方を取り入れており、長い期間で変化を捉えるようにしている。一時的に浜崖が発生したとしても後の風浪で戻ることもある。
- ・目安を設けるとするのは良いことだが、一方で義務も生じる。基本的には当所でも県と同じ考え方で整理しており、長い目で見るという前提で良い提案だと考える。
- ・皆生海岸では粒径、勾配の要素からより細かく見ているので、必要な浜幅としては20mもあれば50mの箇所もある。

(事務局)

- ・提案の内容については良いという理解で良いか。

(日野川河川事務所)

- ・目安としては良いと考える。

(黒岩教授)

- ・皆生海岸のように場所毎にデータがあるようであれば、より細かく見て長い期間での変動も見ていけばよいと考える。今回事務局提案は全県を網羅的するような形で示したものであり、一定の指標を示したということでは意味のあること。

(事務局)

- ・皆生海岸で利用者懇談会があると思うが利用者からの意見はどうか。

(日野川河川事務所)

- ・浜幅というより利用できる面積を確保して欲しいという話がメインになる。個別の課題と考えている。

(黒岩教授)

- ・場所によって利用状況、目的が異なるのは当然である。利用者のアンケートをとりながら考えていくべきことだと考える。

(2) サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

(事務局)

※資料に沿って説明

(日野川河川事務所)

※資料に沿って説明

(黒岩教授)

- ・富益工区のサンドリサイクルは減っているのか。

(日野川河川事務所)

- ・人工リーフとサンドリサイクルを並行して進めており、その効果が出ているものと考えている。
- ・H25年の台風26号では歴代3位の高波浪が長時間続いたために施設被害、浜崖が発生した。

(黒岩教授)

- ・どのあたりがひどかったのか。

(日野川河川事務所)

- ・人工リーフの開口部がひどかった。土砂移動量としては問題ないと考えているが、一般利用のことも考慮し緊急養浜を行った。

(松原教授)

- ・記録的な波浪が近年増えてきているということだと思う。

(日野川河川事務所)

- ・H26年は皆生、富益工区で回復傾向が見られたが、風浪前に養浜した。

(松原教授)

- ・皆生漁港の西防波堤の効果はどうか。

(米子市)

- ・資料でも説明していただいたとおり、設置以降浚渫は行っていない状況。
- ・港口は西を向いている状況で、かつ北東の風であり、また、日野川からの供給も少なかったと言われるがこのような事態になった。
- ・スーパー台風、爆弾低気圧と近年よく言われるが、改めて自然相手の難しさを実感した。
- ・サンドリサイクルの養浜砂としてぜひ無償提供したいと考えており、また、よい解決策があればご意見をお願いしたい。

(松原教授)

- ・台風の進路による吹き返しの風もあり、波向きは変わる。

(黒岩教授)

- ・波は風の吹送時間と面積により発生するものであり、今回、皆生漁港で起こった事象も起こりうるかとだと考える。

(米子市)

- ・見た目だが細かい砂が多いようであり、川というよりは外洋の砂だと思う。
- ・地元漁業者からは堆積傾向にあるような情報はこれまできておらず、ある程度一気に溜まったものと考えている。

(松原教授)

- ・砂の移動予測は海岸工学の中でも一番難しい問題であり、未解決の問題である。

(黒岩教授)

- ・近年では魚探レーダーも高精度化しており、レーダーを利用した海浜変形の研究も行われている。漁業者からの協力が得られるようであれば有効な手段になりうるかもしれない。

(日野川河川事務所)

- ・今年の台風19号の前に台風18号が通過した。これも歴代9位の高波浪が5時間程度継続したような状況であった。この影響も考えられる。

(松原教授)

- ・雨と同じで近年高波浪もどんどん記録を更新していく状況である。

(3) 今後の取組（各施設管理者との意見交換）

■日野川水系総合土砂管理計画について

(日野川河川事務所)

※資料に沿って説明

■海岸保全事業の進捗状況について

(日野川河川事務所)

※資料に沿って説明

■境港公共マリーナの土砂堆積対策について

(境港管理組合)

※資料に沿って説明

3 その他

■簡易な移動装置によるサンドバイパス試験工事の取組みについて

(事務局)

- ・試験工事の実施目的と今年度試験工事の概要を説明。
- ・実用化を目指し、今年度2回の検討委員会（1回目平成26年10月31日開催）が開催される予定であり、詳細は当該委員会で報告される見込み。

(松原教授)

- ・実用化がみえてきたところであると認識している。
- ・簡易な機構によるサンドポンプであり、実用化されれば、境港とか皆生漁港で有効ではないか。